

2023年3月期 第3四半期
決算補足説明資料
(2022年4月~2022年12月)

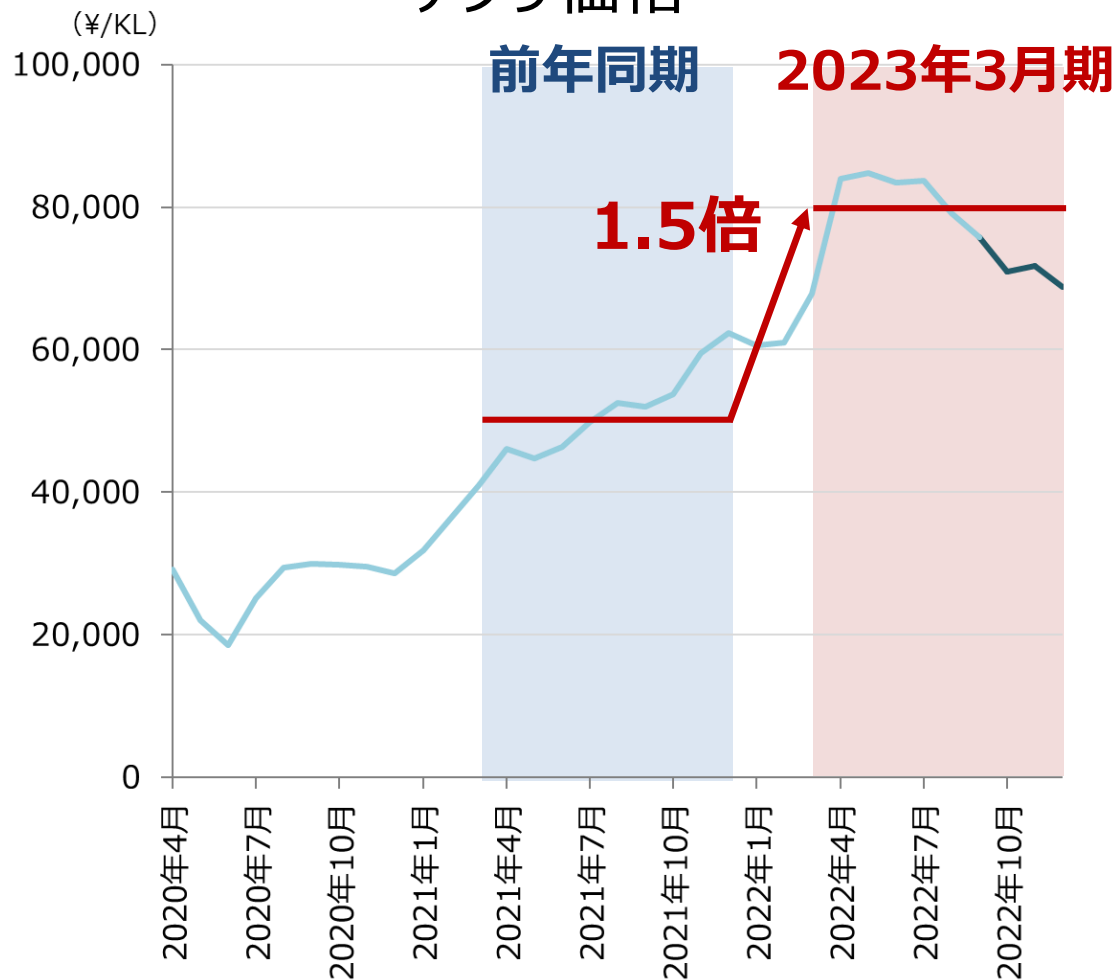
2023年2月10日

 **東洋合成工業株式会社**

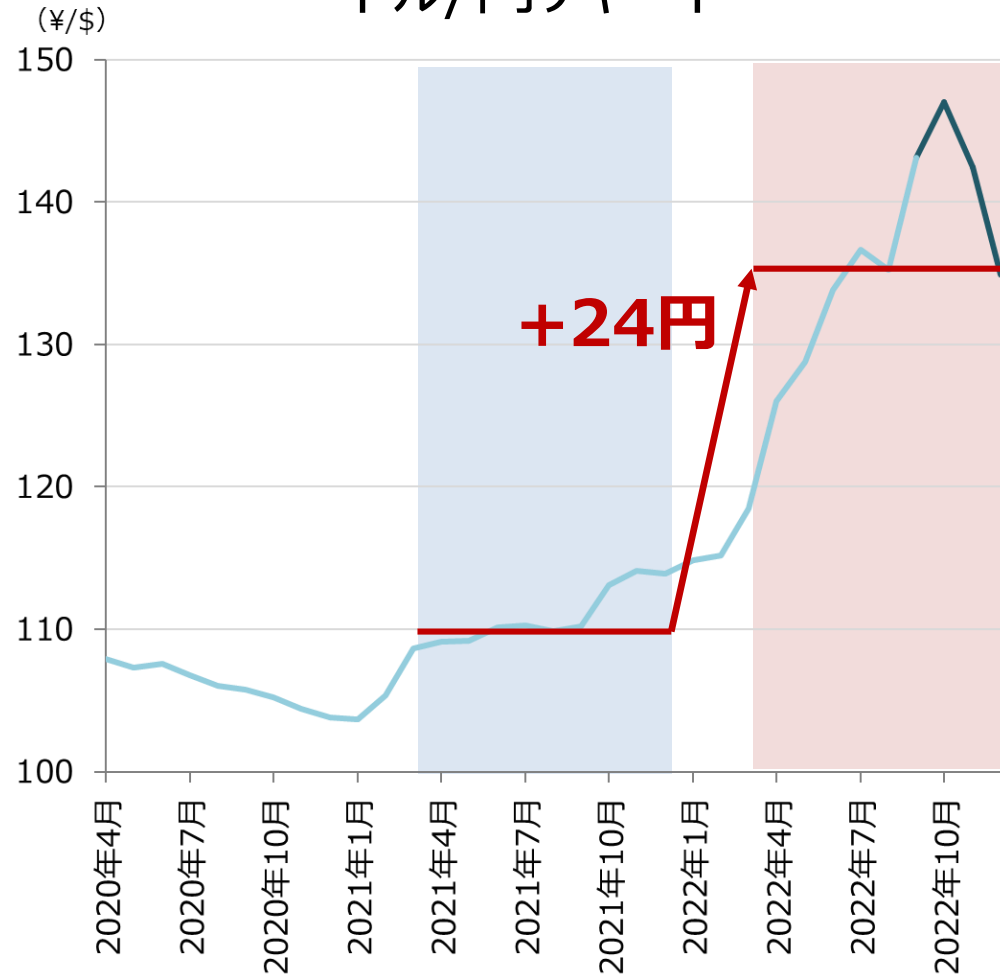
当社を取り巻く外部環境

- 世界的なインフレ進行、ナフサ価格・原材料価格は高止まりし、前年同期比1.5倍。
- 日米金利差から110円から134円まで円安進行。

ナフサ価格



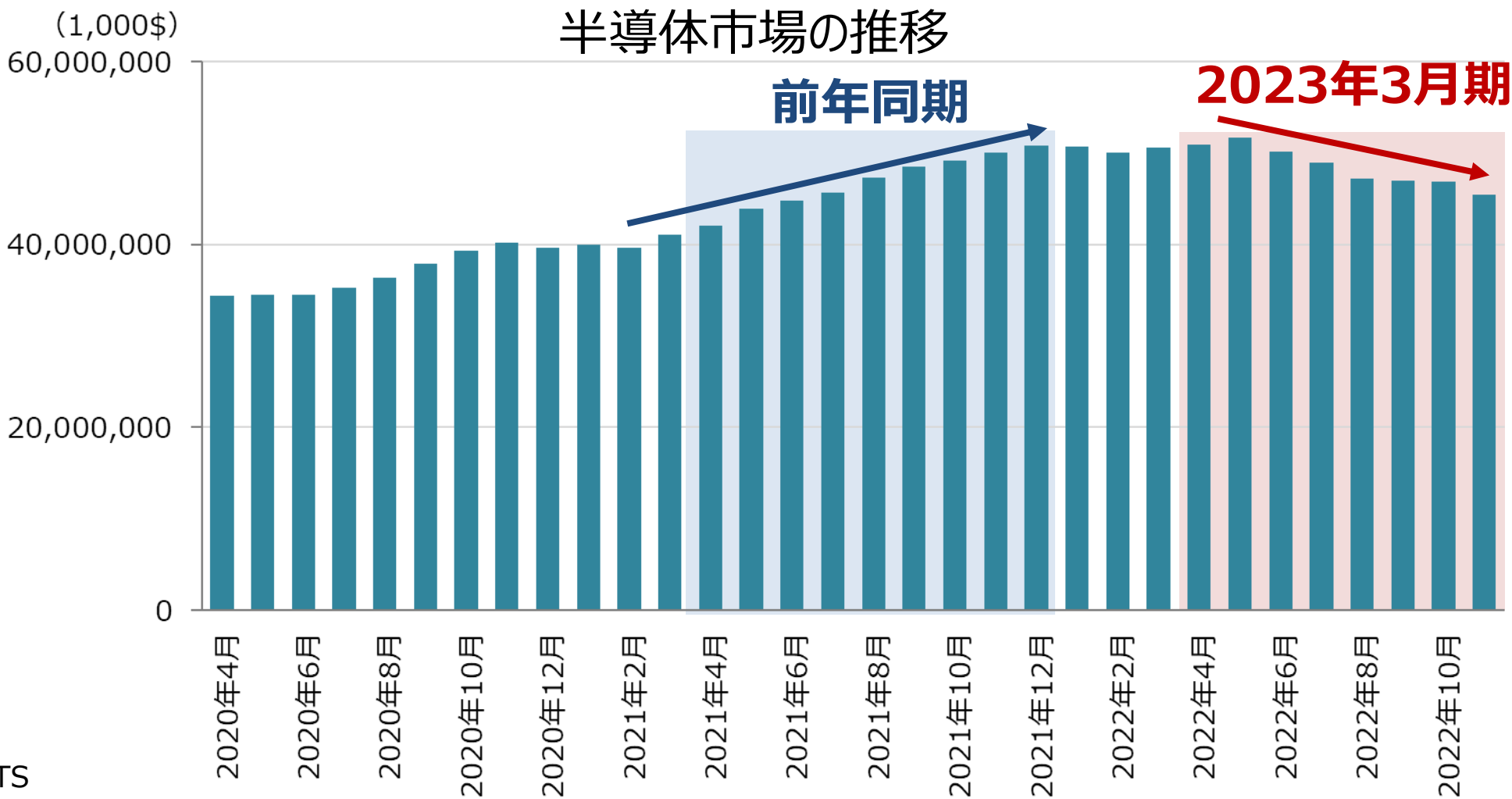
ドル/円チャート



(出所) アメックス・エナジー・コム、yahooファイナンスより当社作成

半導体市場の売上高推移

- 巣ごもり需要の反動とインフレ進行によりスマートフォン・PCなどの民生品向け需要減少。
- ただし先端半導体は、DXを背景に堅調に推移。



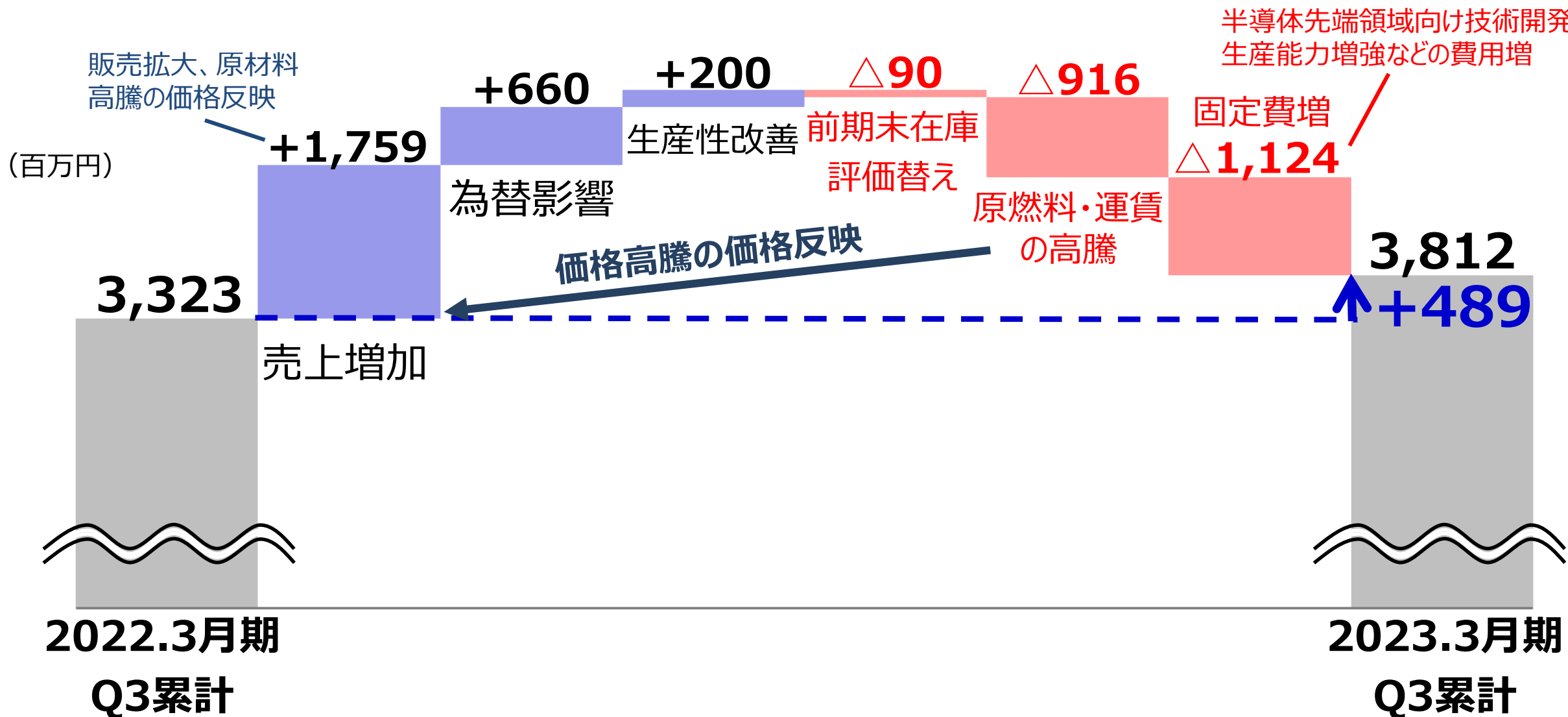
(出所) WSTS

- ・売上高は、一般品需要減速のなか、先端半導体材料の強い需要により前年同期比+7.8%。
- ・営業利益は、先端領域製品が増加し、生産能力増強による固定費増を吸収、4.8億円（+14.7%）の増益。
- ・経常利益は、為替差益も寄与し、前年同期比+20.5%の増益を達成。

	2022.3月期 Q3累計 実績 (百万円)	2023.3月期 Q3累計 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	23,873	25,747	+1,873	+7.8%
営業利益	3,323	3,812	+489	+14.7%
経常利益	3,342	4,026	+684	+20.5%
四半期純利益	2,289	2,745	+456	+19.9%
1株当たり四半期純利益 (円)	288.40	345.87		
期中平均為替レート	¥110.9/\$	¥134.1/\$		

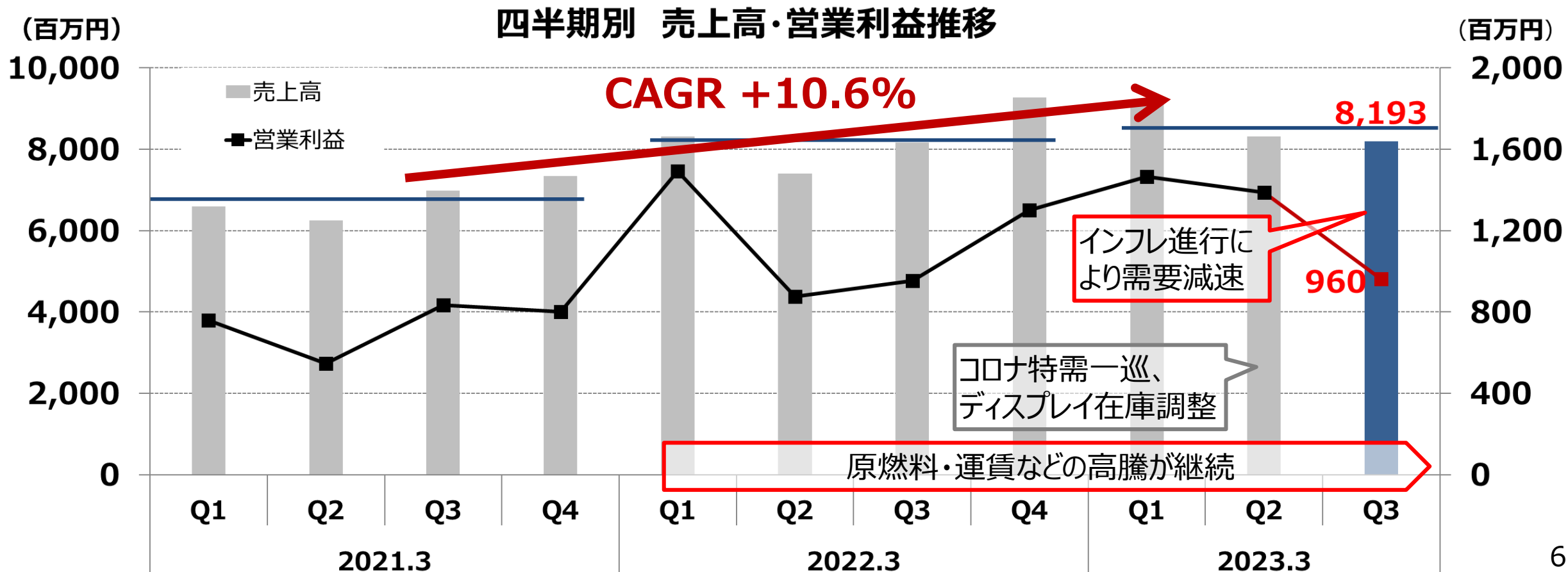
営業利益 前年同期比 増減要因

- 一般品の販売減、原燃料・運賃の高騰、生産能力増強の継続による費用増を高付加価値品の増販で吸収し、+14.7%の増益。



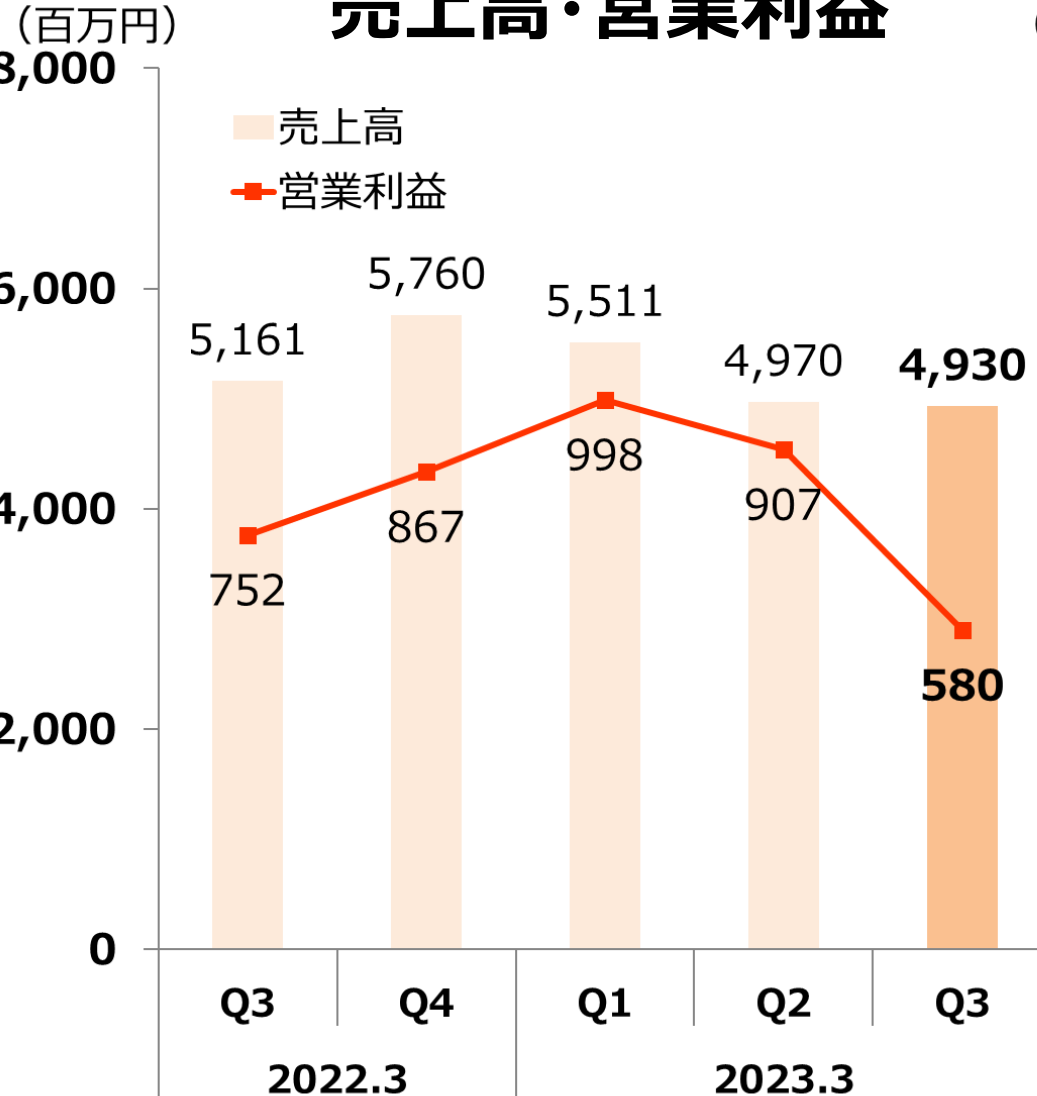
四半期別 売上高・営業利益推移

- Q3単独では、インフレ進行による需要減速や固定費増があったものの、先端材料の強い需要により売上・利益ともに前年同水準を維持。
- 直近5年間の年平均成長率は+10.6%と、継続的に事業を拡大。



感光性材料セグメント

売上高・営業利益



(百万円) **Q3累計売上高：15,411百万円**

(前年同期比+597百万円、+4.0%)

【Q3の概況】

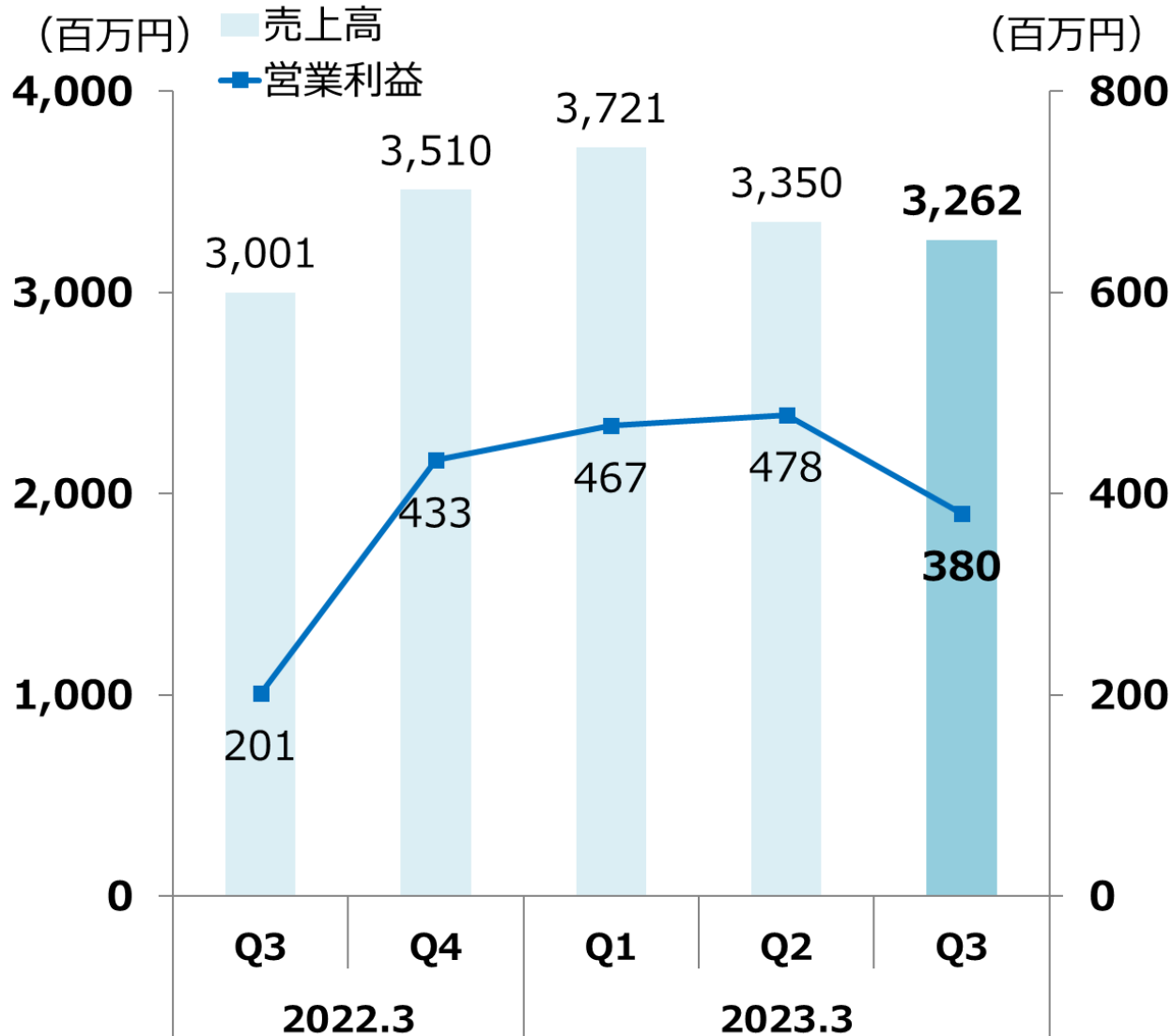
- ロジック半導体用途は強い需要が継続。
- メモリ用途は堅調に推移。
- ディスプレイ向け感光材は在庫調整が終了し、緩やかな回復基調が継続。

Q3累計営業利益：2,486百万円

(同+55百万円、+2.3%)

- 原燃料の高騰や技術開発、生産能力増強の継続により費用増。

売上高・営業利益



Q3累計売上高：10,335百万円

(前年同期比+1,275百万円、+14.1%)

【Q3の概況】

- 高純度溶剤は、巣ごもり需要の反動、在庫調整による需要減はあるものの、先端半導体向けは堅調。
- 香料はインフレにより需要減退。
- ロジスティック事業は、自動車の減産などから溶剤荷動きが減少したが、タンク契約率は高水準を維持。
- 原材料高騰に伴う価格反映が進捗。

Q3累計営業利益：1,326百万円

(同+433百万円、+48.5%)

- 高付加価値品へ製品販売構成が変化。

2023年3月期 第3四半期累計 損益計算書

- 売上総利益は、一般品販売の減少、原燃料高、固定費増を高付加価値品の販売増加で吸収し、8.7億円増、売上総利益率1.6pt良化し26.9%。営業利益は4.8億円増（+14.7%）。
- 経常利益は、円安による為替差益（2.6億円）もあり、6.8億円増（+20.5%）を達成。

(百万円)	2022.3月期 Q3累計	2023.3月期 Q3累計	増減額	増減率	
売上高	23,873	25,747	+1,873	+7.8%	
売上原価	17,826	18,827	+1,000	+5.6%	
売上総利益	6,046	6,919	+872	+14.4%	← 売上総利益率26.9% 1.6pt良化
販売管理費	2,723	3,106	+383	+14.1%	
営業利益	3,323	3,812	+489	+14.7%	
営業外収益	127	334	+206	+161.7%	← 為替差益 262百万円
営業外費用	108	120	+11	+10.6%	
経常利益	3,342	4,026	+684	+20.5%	← 経常利益率15.6% 1.6pt良化
特別損益	△32	△58	△25	-	
税引前四半期純利益	3,309	3,968	+658	+19.9%	
法人税等合計	1,020	1,223	+202	+19.9%	
四半期純利益	2,289	2,745	+456	+19.9%	

2023年3月期 第3四半期 貸借対照表

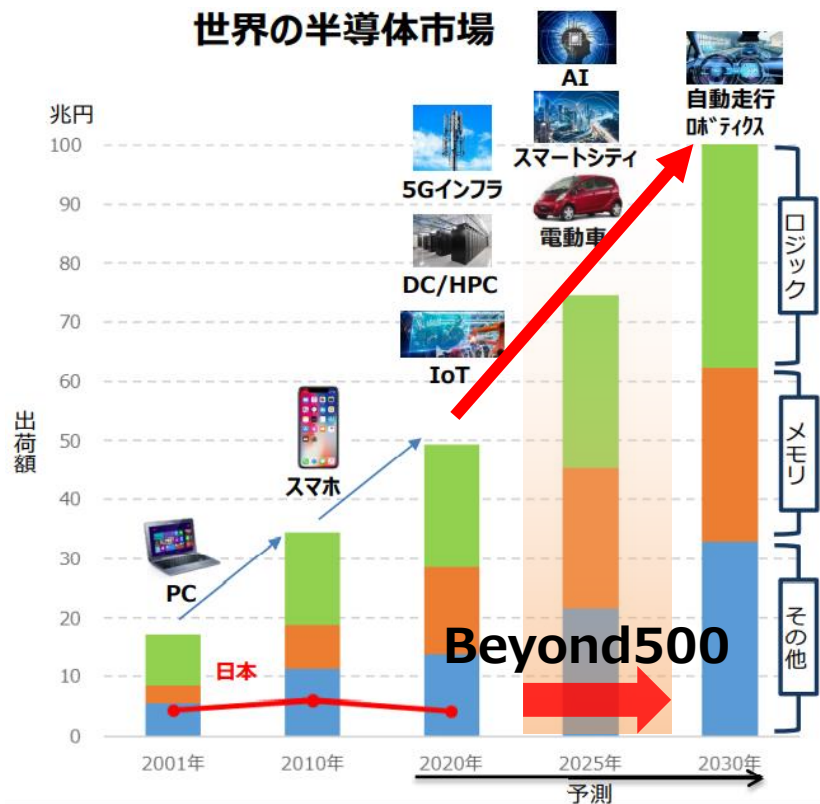
- 売上債権はサイト短縮により減少。
- 棚卸資産は一部の在庫レベル回復と原材料費高騰に伴う単価上昇により3,279百万円増加。
- 株主資本は、純利益の増加により2,467百万円増加。
- 自己資本比率も、上場来最高の38.3%（前期末比+4.1pt）。

(百万円)	2022.3月末	2022.12月末	増減額	(百万円)	2022.3月末	2022.12月末	増減額
流動資産	19,766	22,025	+2,258	負債	30,824	29,861	△963
現金預金	3,681	3,601	△79	仕入債務	5,010	5,382	+371
売上債権	7,402	6,404	△997	有利子負債	17,819	18,731	+912
棚卸資産	8,080	11,360	+3,279	その他	7,993	5,747	△2,246
その他	602	658	+56				
固定資産	27,119	26,406	△713	純資産	16,061	18,570	+2,508
有形固定資産	25,376	24,830	△545	株主資本	16,007	18,474	+2,467
無形固定資産	511	550	+38	評価・換算差額等	54	95	+41
投資・その他	1,231	1,025	△206				
資産合計	46,886	48,431	+1,545	負債・純資産合計	46,886	48,431	+1,545

- 通期進捗率は、売上高73.6%、営業利益は74.0%、経常利益（為替差益含）は80.5%。
- 景気減速の拡大、足もと電子材料市場の調整はあるものの、中期での需要拡大トレンドに変化はないため投資継続（中期経営計画期間の累計投資額300億円）。

	通期業績予想 (百万円)	2023.3月期 Q3累計 実績	進捗率
売上高	35,000	25,747	73.6%
営業利益	5,150	3,812	74.0%
経常利益	5,000	4,026	80.5%
当期（四半期）純利益	3,500	2,745	78.4%
1株当たり当期（四半期）純利益	440.98円	345.87円	

- 半導体が社会インフラの進化を支え、市場は2020年→2030年で倍増の見込み。その後も継続成長。
- 拡大が見込まれる需要への対応として、感光材製造設備増設を決定。
- また、難易度が増す研究開発体制・最先端品質を満たす分析体制の強化のために開発分析棟建設を決定。



2023年2月時点での投資計画

千葉工場
感光材製造設備増設

投資額：約120億円
2024年7月完成予定

千葉工場
開発分析棟

投資額：約30億円
2024年4月完成予定



開発分析棟イメージ図

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

 東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。